



小さき群

救主降世2013年1月号

第79号

昔の思い出より2題

その2

司祭 パウロ 寺本睦夫

その1

私が生まれて初めてキリスト教の伝道講演会なるものに出席したのは、昭和26年の春の宵、木末登司司祭が司牧する帯広聖公会の礼拝堂においてであった。

既に同師のお導きを個人的にうけてはいたが、何故か教会の人々と交わるのがいやで、主日礼拝の出席をかたくなに拒んでいた私であった。そんな私に強く薦めるので、しぶしぶこの夜の集会に顔をだしたのである。外国の婦人(CMS*の宣教師ミス・ダビュルーディー師)が講壇から熱心にキリスト教の話をされているようであるが内容はさっぱりわからない。ただ挨拶で、もう一人一緒に来た先生が急病で出られないということは理解できた。講演会が終わると同時に誰よりも先に牧師館へ逃れた私は、そこで2階への階段を上りつつある丹前を着た婦人の後姿を見かけた。振り返ったその顔はめがねをかけた外人さんであった。

彼女は もう大分上がった階段を降りて、私に話しかけてきた。「ごめんなさい。私、風邪ひきました。ステープリーと申します。どうぞよろしく」・・・

私にしてみれば、はるかかなたの遠い存在である偉い先生が、見ず知らずの男の前に、病の身であり丹前姿というはずかしさも抑えて、わざわざ階段を下りてきて自分の方から頭を下げる・・・ということ信じられないことであった。

幾年もの銀行員生活で、人間を素直に見る心を失っていた私にとって、この謙虚さと柔和に満ちた先生の姿は、それまでかたくなであった私の心を忽ち砕いてしまった。私は間もなく主日礼拝に出席するようになった。

※CMS (英国聖公会宣教協会 Church Missionary Society)

一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心もちなさい。
エフェソ 4:2

1951 (昭和26)年頃、当時私は帯広市のT銀行のしがない1行員であった。めったにないことだが頭取が視察に来るといふ。前日は店内の大掃除。翌夕行員一同営業室に長いこと立って待たされ、頭取は重役等を従えてやっとお見えになった。

簡単な訓示があり、頭取は店長を伴われていずれかに姿を消され上役らも従った。我々下々の行員にとって頭取の視察はこれが全てであった。

それから幾月後、その頃求道中であった私は帯広聖公会にて、市のキリスト教関係者一同と共に賀川豊彦先生をお迎えすることになった。賀川先生と言えば世界的に知られている方であり、接待役を命ぜられた私は大いに緊張して先生のお出でを待った。やがて車から降りられた先生は最前列に居た私のと

ころへ ひよこひよこ歩み寄り、私の手をぎゅっと握り締めると、

「やあー、北海道の青年。カボチャばかり食べているとみえて、顔も手も黄色いなあー! アッハッハー」

と大声で笑われ、出迎えた一同思わず爆笑し、そこは忽ち和やかな雰囲気になった。先生の歓迎会の席上でも改めて一人一人が紹介されたが、そこには身分貧富の差は全く

感じられなかった。人間の地位を尊しとし、名誉栄達しか頭になかった当時の自分にとって、このことは驚きであり、決して人を分け隔てしない教会の交わりというものに、いたく感歎したことをはっきりと記憶している。

互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々とまじわりなさい。

自分を賢い者とうぬばれてはなりません。

ローマ 12:16



生も死も
神の手のなか
去年今年
羽州
去年今年とは、一夜にして移り変わることを言ったもので新年も言う。

11. 風

風がその上を過ぎると、うせて跡なく、その場所にきいても、もはやそれを知らない。

(詩編 103 編 16 節)

今の私たちは、風は空気の移動現象のことだと知っています。そして空気、それに含まれている酸素は、地球に生息する動物にとっても、植物にとっても、なくてはならない物質です。命そのものと言っても言い過ぎではありません。ヘブル語の「ルーアハ」は霊、風、息ということを区別せずに一言で表す言葉です。霊は命のことです。空気は大切なものでありながら見えなかったので、いつまでも人間に気づかれないままでした。「誰が風を見ただしょう。あなたも、私も、見やしない」です。実は、空気が移動して風になると、その存在はわかります。「けれど、木の葉をふるわせて、風は通り抜けてゆく」。風を見るために風見鶏が教会のてっぺんなどに取り付けられています。気象観測の風向計もそのためのものです。

風は空気が動くものです。なぜ空気が動くのでしょうか。うちね、扇風機、エアコンからの風は人間が道具や機械を使って空気を動かしたものです。自然界では温度差による対流で空気が動きます。小規模のものは、海風・陸風、谷風・山風など温度の異なる場所に接する空気による対流です。大規模なものは大気の大循環です。

どちらにしても、風は雲の動きや木の葉のふるえによってしか見ることはできません。霊や命はどのように見えるのでしょうか。

(『聖書に見られる理科のこぼれ』文芸社刊より)

婦人会新年会のお知らせ

次の日程で新年会が行われます。参加希望者は小貴睦子さんが夏堀寿美子さんまで。

男性の参加も良いそうです。

日時：1月19日(土)午後0時30分

会場：喜舟(きふね) 東3条南10-18

会費：2000円

12月の教会委員会での主な報告・決議

1. 2013年度の受聖餐者総会の日程を1月27日とする。
2. 双葉幼稚園が今年度3月で閉園になる。

告示

2013年度帯広聖公会受聖餐者総会を下記の通り開催します。現在受聖餐者の皆様にはご出席をお願いいたします。なお、やむを得ない事情で欠席される場合は、委任状をご提出ください。

日時：2013年1月27日礼拝後

会場：帯広聖公会礼拝堂

議題：教務およびその他の報告

会計決算の件

会計予算の件

その他教会の宣教に関する件

◎2013年度北海道教区宣教目標

『確かに未来はある

あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

◎2013年度教会委員選挙結果

◇教会委員 10名

尾関敏明、山本雅之、木末 康、橋本知樹、

高橋献一、大野耕一、小貴耕喜、小貴睦子、

飯塚幸子、大村倫子

次点 尾関真理

◇教区会信徒代議員 2名

尾関敏明、山本雅之

次点 木末 康

なお、飯塚公男さんは当選されましたが委員・信徒代議員辞退の意向が示され、牧師と話し合いの上、ご意志を尊重することといたしました。

ちょっとお耳を

昨年9月、浜名湖畔の施設で開催された日本聖公会宣教協議会で用いられた資料と纏められた提言をプリントし、ファイルに綴じました。

植松首座主教は、私たち信徒が、今後の10年に亘って取り組むべき課題としてこの提言を読み学び話し合う事を通して、夫々の教会の新たな宣教・牧会の方向が示されることを願っております。

今年度の教区修養会は釧路で開催されますが、この提言を中心として行われます。

一部200円でお分けします。代金は教会建物改造募金に捧げられます。希望者は山本雅之までどうぞ。



厚生病院でのキャロリングです。教会員の大野ドクターも一緒に唄って下さいましたよ。



恒例の藤丸DP前でもしましたよ。福音ルーテルの加納牧師は毎年参加して下さいます。



クリスマスイブの燭火礼拝です。今年は初の試みとして福音ルーテル帯広教会と共通の式文を用いました。日本聖公会と福音ルーテル教会は管区レベルで交わりを深める取組をしていますが、一昨年の講壇交換(礼拝での説教を互いに行いあう)に続いての教会として画期的な礼拝です。しかし、ローソクの明りだけでこうも礼拝が？素晴らしい見えるとは、(何が?) (いやいや、見たままですよ)



こちらは昨年に引き続きの「神の楽器」トロンボーン四重奏による聖歌吹奏です。帯広交響楽団の皆様(岩倉英孝さん、赤部順哉さん、浅田直さん、山本睦人さん)に感謝します。説教後の曲『深い闇のさなかに』は聖歌102番ですが、作詞はカトリックの岩橋淳一神父、作曲はあの都倉俊一さんです。曲もさすがですが、詩は読んでいて涙が思わずこみ上げてくる、曲名からは思いもかけない心に深く響いてくる内容だと思えます。

聖歌102番『深い闇のさなかに』 作詞:岩橋淳一 作曲:都倉俊一

1. 深い闇のさなかに きらめく星は 道に迷う人への 神のまなざし
(おりがえし) メリーメリークリスマス 神のみ子よ ハレルヤ クリスマス 歌え喜べ
2. 風にすさむ砂漠に 咲き出る花は 涙ためた人への 神のささやき (おりがえし)
3. 疲れ果てた心に ささやく声は 待ちこがれた人への 神のおとずれ (おりがえし)

この「小さき群」は帯広聖公会の月報です。当教会の信徒さんに教会の諸行事のお知らせやご案内をする事と、信徒さんによる“信仰の証(あかし)”を書いていただく事で読まれた方々への“小さな宣教”の役割も担ってこうと考えています。教会は自分だけが祈る場所ではありません。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にあるのである。」(マタイ 18:20)。友人に聖書についてどう思うのか聞いてみたことがあります。「旧約聖書はユダヤ教で新約聖書はキリスト教で使われる。だから買った聖書には新約しか載っていない」云々。先ずは私たち自身が知る努力をして、理解して貰う努力をしませんか。宣教は身近にあります。